

イオ(92)とソメ子(88)、たったふたりで暮らす島。

飛 族

村田喜代子

日本海のはずれ、朝鮮との国境に浮かぶ養生島。
かつては漁業で栄えていた島に、三人の老女が暮らしていた。
ナオの死で、いまはイオとソメ子のふたりだけが、島に残されている。
イオは八十五歳までアワビを獲るほど、心身ともに丈夫ではあるのだが、
娘のウメ子としては心配でならず、しばらく島に滞在していた。
二十五年前の海難事故で、命を落とした夫を供養するイオとソメ子。
不法滞在者のうわさや、日常品の運搬コストなど、
さまざまな問題に直面しながら、暮らしを守り続ける老女たち。
そんな島に、おそろしい台風が近づいてきて……。

名作映画「八月の鯨」のように、海辺の厳しい暮らしと
シンプルに生きようとする姿に胸を打たれる。傑作長編小説。

村田喜代子プロフィール

一九四五年、福岡県北九州市八幡生まれ。
七七年に「水中の声」で九州芸術祭文学賞を受賞し、執筆活動に入る。八七年、「鍋の中」で芥川賞。九〇年、「白い山」で女流文学賞。九二年、「真夜中の自転車」で平林たい子賞。九七年、「蟹女」で紫式部文学賞。九八年、「望潮」で川端康成賞。九九年、「龍秘御天歌」で芸術選奨文部大臣賞。一〇年、「故郷のわが家」で野間文芸賞。一四年、「ゆうじょこう」で読売文学賞。他に「蕨野行」「龍秘御天歌」「八幡炎炎記」「エリザベスの友達」などの著作がある。

インタビュー、書評などのお問い合わせ

文藝春秋 プロモーション部 電話 03-3288-6142

E-mail pr@bunshun.co.jp

(文藝春秋刊 2000円+税)